

学芸彙報（二〇一〇年七月～二〇一〇年十二月）

仏教学会活動報告

◇研究発表例会

七月十五日（木） 午後四時二〇分～ 於 マルチメディア演習室

博士後期課程三回生 シーセータワオラクン・スチャーター

(Srisethaworakul Suchada) 氏

「如来藏系の經典における「法身」について―『如来藏経』

・『不増不减経』・『勝鬘経』を中心として―

専任講師 箕浦 暁雄 氏

「ステイラマテイとヤシヨミトラ―三種類の分別を定立する  
るか否か―」

◇修士論文中間発表会

十月四日（月） 午後四時二〇分～ 於 マルチメディア演習室

◇研究発表例会

十月二十一日（木） 午後四時二〇分～ 於 マルチメディア演習室

博士後期課程三回生 金 敬姫 氏

「初期阿毘達磨論書における煩惱説」

博士後期課程三回生 香月 拓 氏

「預流と阿羅漢―『ダンマパダアッタカタ―』における信の  
観点から―」

任期制助教 戸次 顕彰 氏

「道宣による『七種礼法』引用の意図」

◇公開講演会

十二月一日（水） 午後四時二〇分～ 於 尋源講堂

東京大学人文社会科学系研究科教授、日本印度学仏教学会理事長

齋藤 明 氏

「中観思想とは何か―ナーガールジュナと初期仏教―」

講演会終了後、「畑かく」にて講師を囲んで懇談会を開催し  
た。